

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1996. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 152

日本野鳥の会 埼玉県支部

タシギとオオジシギの鑑別

海老原美夫（浦和市）

夏の高原でディスプレイフライトをしていれば、オオジシギであることはすぐにわかる。冬の枯れ田でうずくまっていれば、タシギだろう。ところが、この2種が、春と秋の渡りの途中田んぼのあぜに降りていたら、もう分からない。今回は長年の謎であったその鑑別に挑戦。個人的な思いこみと偏見による鑑別講座の第2弾をお送りする。

①次列風切後縁の白線

野外鑑別で役に立つ相違点をかたづけしから並べるとすると、まず言わなければならないのがこれ。日本野鳥の会の『フィールドガイド日本の野鳥』（略称：FG）163ページにも出ている。飛んだ時に翼の後ろ側に白線が見えればタシギ、見えなければそれ以外のジシギという区別だが、これは、飛んでくれないと役に立たない。

②色、大きさ、体型

タシギの方が茶色が強くて、オオジシギの方が比較的白っぽい。タシギよりオオジシギの方がひとまわり大きい。オオジシギの方がよりずんぐりした体型である。

これらの特徴は個体差があって、かならずしも当てはまらない場合が結構あるし、並んでくれないと比較できないこともあるので、決め手にはならないが、最初に「あれは？」と目をつけるきっかけにはなるだろう。

③くちばしの長さや形

これは比較的是っきりできる鑑別点。タシギのくちばしは長くて、頭の1.5倍かそれ以上はありそうな感じがするのに対して、オオジシギのくちばしは比較的短くて、頭の1.5倍はとてもないという感じ。

タシギのくちばしが全体的にほっそりしているのに対し、オオジシギのくちばしの基部ははっきりと太く見える。

④目の前の白い部分の広さ

眉斑からくちばしの基部まで続く白い部分が目の前のあたりで広がっているのがオオジシギ。タシギはあまり広がらない。そのためオオジシギの顔は少し間が抜けて見えると

いう人もいる。ただし、見る角度によって違う印象があるので、要注意。

⑤下肩羽の白い縁どりの違い

これはかなり重要な鑑別点だが、まず下肩羽とは、どこの羽だろう。

写真で丸く囲んでおいたところの羽がそうである。FG 163ページの図で見ると、背中に1本の白線が見え、その下にもう1本の白線がある。その下に接して前から後ろに何枚か並んでいる羽がある。その羽のことだ。

その1枚1枚の白い縁どりが違う。白と言っても、本当はクリーム色に見えるのだが、右ページの図のようにタシギは体の前の方の縁でははっきりしているが、後ろ側ではほとんど見えない。オオジシギは後ろの方が少し細いが、前後とも白縁がみえる。（正確には羽の内弁と外弁という言葉があるが、分かりやすくするため、前側・後ろ側と書く。）

ただし、オオジシギの後ろの白縁も、前の方から見た時には見えにくくて、後ろ斜め方向から見た時の方がはっきり見えることがあるので、これも要注意。

⑥下肩羽の黒い模様の違い

もう一度右ページの下肩羽の図の、今度は黒い模様の形に注目。実際の形はもっとうつと複雑だか、分かりやすく描くと、こんな感じになる。オオジシギの黒い部分は矢尻形に見えるのに対して、タシギの黒い部分はただ黒いかたまりに見える。タシギの黒い部分もよく見ると前縁の白線沿いに細い黒線が続いていることがあるが、矢尻の形には見えない。オオジシギの黒い模様は、2重の矢尻形に見えることもあり、特に太い時は、ハート形に見えることもある。

タシギ



オオジシギ

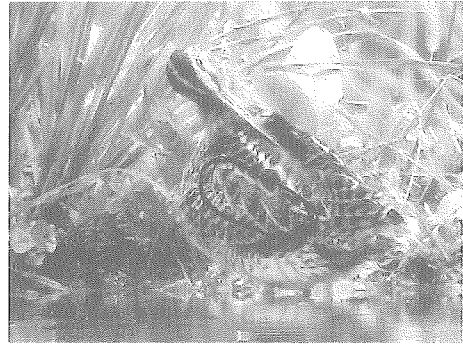
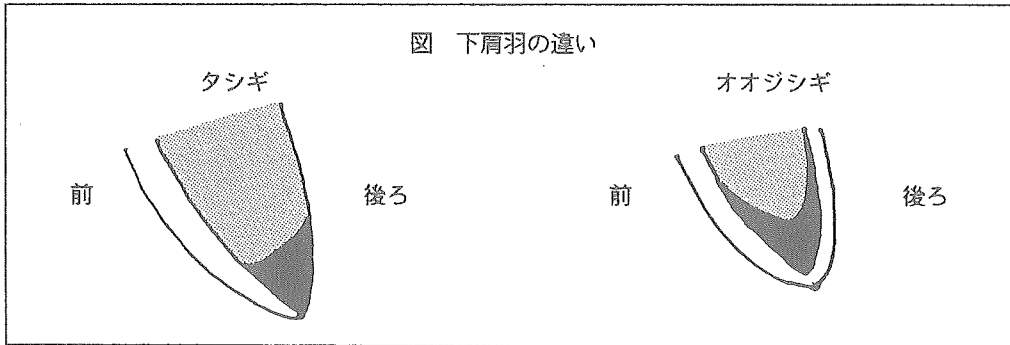


図 下肩羽の違い



⑦下肩羽の大きさと形

タシギの下肩羽は大きく柳葉状に伸びていることがある。その場合は、前縁の白線が体の側面に斜めの平行線に見え、かなり遠くからでも目立つ識別点になる。

オオジシギの下肩羽は比較的小さくて、横にびつちりと並んでいる。その為、時には、前縁の白線がつながって体の前から後ろの方に一本の白線に、後ろ縁の白線がそれに直角に立ち並んで見えることがある。

タシギの下肩羽が小さいこともあるが、これは若いせいか生え変わりの途中なのかは分からない。

⑧翼下面の色の違い

タシギの翼下面(下雨覆)は白、オオジシギの翼下面は黒っぽく見える。

私の写したタシギのビデオ映像によると、FG 163ページ左上隅の図より下雨覆は白く見える。

⑨採餌する場所の違い

タシギは腹が水面につきそうな深いところでも採餌するのに対して、オオジシギはあま

り深い水には入らず、タシギより水の少ないところを好む傾向がある。

春と秋の渡りの途中で、地上に降りている時に役立つと思われる識別点を主に書き並べてきたが、実はこれは、今年の秋の渡りのシーズンに神奈川県海老名市の休耕田で私が撮影したビデオ映像を基礎資料にして、元東京支部長の今井宗丸氏、野鳥写真家の浅子明氏をはじめとする多くの人たちからの様々な情報と自分の観察結果を整理したもの。当然間違いや思い違いもあるだろうし、春の渡りの時には、多少違うかもしれない。ご指摘をお待ちして勉強をしたいと思う。更にそれぞれの成若の区別や、ハリオシギやチュウジシギの識別も知りたいが……できるかな。

それにしても、あらためてFGを見直してみると、③④⑤⑥などは見事に描き分けているのに驚いた。亡き高野伸二先生がこの一文を見たら、そんなことは昔から分かっていることだよと、笑われるかもしれない。

(約25分間のビデオにもまとめてあります。商売ではありませんが、ご希望の方、連絡先は支部事務局まで)

1995/1996 冬

「鳥の目から環境を調べよう！」調査報告

日本野鳥の会埼玉支部研究部

1995/1996年冬の「鳥の目から環境を調べよう！」調査は、151件の回答をいただき68種が観察されました(表1)。回答を寄せられた方の分布(小荷田1996)を見ると、ほとんど鉄道沿線に隣接しており、1~2階建て住宅地区が圧倒的多数(93%)を占めています。

調査に協力いただいた会員各位の自宅から半径50m以内の7種の環境における上位5種を示します(表2)。

ヒヨドリとメジロは、越冬群による在地繁殖群への追加のため観察が増加したと考えられます。また、工業地区、高層住宅地区ではハクセキレイが、農業地区(畑)ではモズ、

コジュケイが、農業地区(水田)では、コサギ、ダイサギ、アオサギがその環境の特色を表しています。

今年度も12月1日から1月31日、自宅から半径50m以内で観察された鳥を、調査はがき(1月号に同封)で回答する「鳥の目から環境を調べよう！」(冬鳥)を実施します。1997年1月末に観察された鳥を記入して調査はがきをご郵送下さい。本調査は、環境と鳥の関係を見ますので、ドバト、ワカケホンセイインコ、セキセイインコなど、かごぬけの鳥も必ず記入下さい。

よろしく願い致します。

(小荷田行男)

表 1

	高層住宅地区	1~2階建て住宅地区	商業地区	工業地区	農業地区(主に畑)	農業地区(主に水田)	林業地区			高層住宅地区	1~2階建て住宅地区	商業地区	工業地区	農業地区(主に畑)	農業地区(主に水田)	林業地区	
ヒヨドリ	20	110	4	4	5	3		146	ノスリ		3	1				4	
スズメ	18	100	4	3	5	3		133	ユリカモメ		3	1				4	
ムクドリ	15	94	3	4	4	2		122	ルリビタキ		4					4	
キジバト	19	86	3	3	5	3		119	カケス		2			2		4	
メジロ	12	85	4	3	5	1		110	チュウサギ		2	1				3	
シジュウカラ	13	81	4	2	4	2		106	アオサギ		1				2	3	
ツグミ	9	72	3		3	1		88	ツミ		3					3	
ハクセキレイ	15	60	3	3	3	3		84	ヒバリ		2			1		3	
ハシボソガラス	11	64	2	2	2	2		83	ササゴイ	1	1					2	
オナガ	11	58	3	1	3			76	ヒドリガモ		1				1	2	
ハシボソガラス	12	55	2	1	3	2		75	イカルチドリ		2					2	
カワラヒワ	13	52	4	1	3	1		74	タシギ	1					1	2	
モズ	7	40	2		4	1		54	ヤマセミ		1			1		2	
ジョウビタキ	1	45	1		3	1		51	ヤマガラ		2					2	
ウグイス	2	41	2		3	1		49	イカル		2					2	
コゲラ	7	36	1		3			47	カイツブリ		1					1	
コサギ	6	27	2		1	2		38	オンドリ					1		1	
セグロセキレイ	4	18	1		3	1		27	トビ		1					1	
カワウ	3	15		1				19	オオタカ	1						1	
カルガモ	1	14	1		1	1		18	ハヤブサ		1					1	
シラコバト	1	11	2		1	1		16	キジ		1					1	
アオジ		11	2		3			16	タゲリ	1						1	
ゴイサギ	2	8	1			1		12	イソシギ		1					1	
コジュケイ		7			4			11	セグロカモメ			1				1	
キセキレイ	2	7			1			10	アカゲラ		1		1			1	
コガモ	2	6	1					9	ツバメ		1					1	
アオゲラ		8			1			9	ノビタキ		1					1	
ホオジロ		6			2			8	トラツグミ		1					1	
オナガガモ	1	5				1		7	アカハラ					1		1	
シメ		5	2					7	シロハラ		1					1	
チョウゲンボウ	2	2			1	1		6	セッカ		1					1	
ダイサギ	1	2				2		5	カンラダカ		1					1	
カワセミ		5						5	ドバト			1				1	
エナガ		5						5									
マガモ		3				1		4									
											214	1,285	62	28	79	41	1,709

表2 埼玉県における環境別上位5種（冬鳥）

環 境	1	2	3	4	5
工 業 地 区	ヒヨドリ ムクドリ	—	スズメ、キジバト メジロ、ハクセキレイ	—	—
商 業 地 区	ヒヨドリ、スズメ メジロ、シジュウ カラ、カワラヒワ	—	—	—	—
高 層 住 宅 地 区	ヒヨドリ	キジバト	スズメ	ムクドリ ハクセキレイ	—
1～2階建て住宅地区	ヒヨドリ	スズメ	ムクドリ	キジバト	メジロ
農 業 地 区（畑）	ヒヨドリ、スズメ キジバト、メジロ	—	—	—	ムクドリ、シジュウカラ モズ、コジュケイ
農 業 地 区（田）	ヒヨドリ、スズメ キジバト ハクセキレイ	—	—	—	ムクドリ、シジュウカラ ハシブトガラス、ハシボ ソガラス、コサギ、ダイ サギ、アオサギ
林 業 地 区	—	—	—	—	—
全 地 区	ヒヨドリ	スズメ	ムクドリ	キジバト	メジロ

地鳴きコーナー

伊香保で植染ウォッチング 外園だけの（春日部市）

今日は、暑いなか思ってたって、前から聞いていた伊香保森林公園へ行って来ました。天然のクーラーで寒いくらいの中、次々にやって来る小鳥を見るだけ。森林の中だから太陽は高くなった方が良いから、朝、家を出るのはおそくて良いし、こんな楽な鳥見は他にはないと思います。クロツグミ、トラツグミ、初めて見ました。火のついた蚊取線香一つで楽しい一日が過ごせました。翌週も行ってし



まいました。

ところで「しらこぼと」8月号7ページにヨシゴイのカットがありましたが、手元に去年の8月に瓢湖で撮った、同じような写真がありましたので見て頂きたく、お送りします。

大宮駅のアイドル？

高橋達也（戸田市）

先日、私用でJR大宮駅を使う機会がありました。その際、中央改札口にある「非常口」という吊し看板の上に1羽の鳥が止まっていました。ドバトかと思いましたが、真下まで行ってみると、その鳥はキジバトでした。誤って入り込んだのかと思いましたが、オドオドする様子もなく、堂々としているため、そうでもなさそうです。行かれた方ならわかると思いますが、この駅の中央改札口はかなり閉鎖的な空間で人通りも大変激しい所です。どこの出入口を利用して入り込んでいるのかと思い、しばらく観察していると、ソニックシティ方面からもう1羽がやって来て、すぐ近くにある柱の隅へ2羽で止まりました。あとから来た1羽は、明らかに枝をくわえていたので、どうやら営巣活動を行っているようです。最近、建造物を使って営巣することは聞いていましたが、まさかあんな所で、と驚いてしまいました。かわいいヒナが生まれ、駅のアイドルになるといいのですが…

鳥の観察日記

アマサギ ◇9月29日、浦和市在家で20羽
(大塚純子)。
 マガモ ◇9月16日、浦和市下大久保の鴨川
排水機場で♂中間羽1羽♀1羽(海老原美
夫)。
 ヨシガモ ◇9月25日、戸田市道満の彩湖で
1羽(高橋達也)。◇10月12日、浦和市の
白幡沼でエクリプス♂1羽(海老原美夫)。
 オカヨシガモ ◇9月16日、浦和市秋ヶ瀬B
区の大久保農耕地でエクリプス♂1羽(海
老原美夫)。
 シマアジ ◇9月25日、戸田市道満の彩湖で
3羽(高橋達也)。◇10月7日、浦和市の
白幡沼で♀タイプ1羽(海老原美夫)。
 ツミ ◇9月13日、伊奈町の県民活動セン
ター付近で小鳥をぶらさげて東から西へ飛
んで行った(樋口信之)。
 ハイタカ ◇9月16日、北川辺町の渡瀬遊水
地で1羽(樋口信之)。
 サシバ ◇9月16日、北川辺町の渡瀬遊水地
で1羽(樋口信之)。
 チョウゲンボウ ◇11月7日、三郷市の江戸
川上葛飾橋付近で1羽。カラスにモビング
されていた(岩瀬和志)。
 コジュケイ ◇10月3日、坂戸市西坂戸の自
宅の窓から見ていると、草むらの中から親
鳥1羽を先頭につぎつぎ幼鳥が現れて、な
んと10羽の子たくさん(増尾節子)。



マヒワ (海老原美夫)

ダイゼン ◇10月17日、戸田市道満の彩湖で
1羽(高橋達也)。
 ツルシギ ◇10月17日~23日、吹上町小谷の
荒川堤外の休耕田で3羽。降雨により水が
たまり、シギ、チドリ、カモ達が餌をとる
(逸見脛)。
 コアオアシシギ ◇9月26日、騎西町の休耕
田で1羽(樋口信之)。
 アオアシシギ ◇10月17日~20日、吹上町小
谷の荒川堤外の休耕田で5羽(逸見脛)。
 オオジシギ ◇9月16日、浦和市下大久保の
鴨川排水機場で1羽(海老原美夫)。
 カッコウ ◇9月27日、戸田市の戸田公園で
幼鳥1羽(高橋達也)。
 ツツドリ ◇9月4日、浦和市上野田の浦和
市野田農協の玄関ガラスに激突し落鳥(藤
原寛治)。◇10月4日、戸田市の戸田公園
で1羽(高橋達也)。
 アマツバメ ◇9月20日、戸田市道満の彩湖
上空で3羽(高橋達也)。
 カワセミ ◇9月29日、浦和市在家の文明堂
工場裏の水の汚い水路で1羽(大塚純子)。
 アオゲラ ◇10月13日、日高市巾着田のあい
あい橋付近の林で1羽。アカゲラやヤマセ
ミと似た鳴声。とても印象的な色合いでし
た(本多滋和・幸枝)。
 アカゲラ ◇10月17日、戸田市の道満グリー
ンパークで2羽(高橋達也)。
 ショウドウツバメ ◇9月20日、戸田市道満
の彩湖で13羽(高橋達也)。
 ビンズイ ◇10月2日、戸田市道満の彩湖で
1羽(高橋達也)。
 モズ(高鳴き) ◇10月2日、浦和市上野田
の浦和市野田農協付近で(藤原寛治)。
 ジョウビタキ ◇10月18日、秩父市の羊山公
園で(山岸昭治)。◇10月20日、岩槻市加
倉5丁目の自宅付近で1羽(藤原真理)。
 ◇10月22日、浦和市岸町で♂1羽(海老原
教子)。◇10月22日午前9時、吹上町内を
流れる元荒川の金網フェンスに♀1羽。午
後3時、同所上空で2羽が鳴きながら飛び
回っていました(逸見脛)。◇10月27日、
日高市巾着田で♂1羽。「ヒッ、ヒッ」の
声とともに。もう冬鳥の季節ですね(本多

滋和・幸枝)。

ノビタキ ◇9月23日、大宮市見沼1丁目
で1羽。台風17号の残した田んぼの水たまり
で水浴びをしていました(浅見徹)。◇9月
25日、戸田市道満の彩湖で4羽(高橋達
也)。

コヨシキリ ◇9月23日、戸田市の戸田橋付
近の荒川河川敷で1羽。ここ3年間、この
時期に必ずさえずる個体が出現する(高橋
達也)。

キビタキ ◇9月15日、戸田市の戸田公園で
♀1羽(高橋達也)。

エゾビタキ ◇9月21日、秩父市の羊山公園
で2羽。10月4日には同所で10羽以上(山
岸昭治)。◇10月2日、東松山市の物見
山、平和資料館付近で3羽(中村豊己)。

コサメビタキ ◇9月27日、戸田市の戸田公
園で1羽(高橋達也)。◇10月2日、東松
山市の物見山、平和資料館付近で1羽(中
村豊己)。

ヒガラ ◇11月9日、菖蒲町の神明神社参道
で2羽(内藤義雄)。

ヤマガラ ◇9月15日、蓮田市黒浜の国立療
養所東埼玉病院の林で7~8羽(玉井正
晴)。◇9月20日、大宮市西新井の森でシ
ジュウカラとコゲラの混群中に1羽(浅見
徹)。◇9月20日、浦和市上野田の野田小
学校付近で1羽(藤原寛治)。◇10月7日、
与野市八王子のかやのき団地内の公園で1
羽。エゴノキの実を食べていた(大塚純
子)。◇10月17日、加須市のむさしの村で
2羽(藤原寛治)。◇10月27日、岩槻市加倉
5丁目の自宅付近で鳴き声を聞く(藤原寛
治)。◇11月9日、菖蒲町の神明神社参道



オオタカ(海老原美夫)

で10羽近い群れ。今年はヤマガラの当り年
かな(内藤義雄)。

アオジ ◇11月7日、三郷市の江戸川上葛飾
橋付近で1羽(岩瀬和志)。

マヒワ ◇10月20日、秩父市の羊山公園で
(山岸昭治)。

ベニマシコ ◇11月7日、三郷市の江戸川上
葛飾橋付近で♀1羽(岩瀬和志)。

シメ ◇9月20日、戸田市の道満グリーン
パークで1羽(高橋達也)。◇10月21日、
秩父市の羊山公園で(山岸昭治)。

コムクドリ ◇9月20日、戸田市の道満グ
リーンパークで7羽(高橋達也)。

カケス ◇9月16日、北川辺町の渡瀬遊水地
で1羽(樋口信之)。◇10月2日、浦和市上
野田の野田小学校上空で3羽(藤原寛治)。

オナガ(白化) ◇10月19日午前7時50分、
東武東上線の上福岡駅前の電線にとまって
いる数羽の中に全身が白い個体1羽(増尾
隆)。

表紙の写真

メジロ(メジロ科)

熊谷から東京に引っ越して、あっという間
に一年が過ぎた。住んでみると家の周りにも
以外と鳥たちがいることに気が付いた。家の
前のツバキの花が咲き始めるとメジロもやっ
て来るようになった。通勤途中の小さな公園
のツバキにも、よくメジロは訪れていたが、

ある朝、木々がすべて切り倒されてしまっ
た。敷石で舗装され遊具も新しくなったが、
申し訳程度に3本の木が植えられただけだっ
た。

菱沼一充(板橋区)

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月8日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11分発、または寄居9:03発に乘車

担当：町田、和田、田口、榎本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本

見どころ：秩父の山々が手に取るように見えはじめると本格的冬の到来。常連客の小鳥、ジョウビタキ、カシラダカ、シメ、アオジ等に加えてどんなゲストが訪れてくれるでしょうか。それにきれいになったカモ達や大空に滑空する猛禽類の雄姿を見るのも楽しみです。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月15日（日）

集合：午前9時40分 森林公園南口入り口前

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスに乘車、終点下車

費用：入園料390円（子供80円）

担当：内藤、岡安、佐久間、榎本、長谷部、藤掛、石井（幸）、島田

見どころ：今年最後の探鳥会の日になってしまいました。人影も少ない木立の中で小鳥達の声を聞いてみませんか。大空に猛禽類は飛んでいませんか。沼にはカモ達が何種いるでしょうか。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月8日（日）

集合：午前9時10分 西武線西武球場前駅前

交通：西武狭山線西所沢8:59発に乘車

解散：正午ごろ、狭山湖堤防北側付近

担当：長谷部、杉本、石井（幸）、小野、藤原（佳）、中村（祐）、山本、久保田

見どころ：冬の狭山湖では、高い山で夏を過ごしていたルリビタキやキクイタダキ、外国で生活をしてきた多くのカモの仲間達をまとめて見ることができません。考えて見るとちょっとぜいたく。湖面をわたる風は冷たいので防寒には気を付けた支度でどうぞ。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：12月15日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、笠原、伊藤、若林、倉林、岡部、兼元、嶋田、森

見どころ：'84年5月にスタートして今回で150回目となりました。特に何もありませんでしたが、三室の普通の鳥達を多くの人々と交わり楽しんで見てきました。その間ここから育ったバーダーも多いことでしょう。そんな区切りの会で何が出てくれるか楽しみです。

年末講演会

期日：12月22日（日）午後1時30分～4時30分（受付開始午後1時）

会場：埼玉県県民活動総合センター（伊奈町） TEL 048-728-7111

交通：ニューシャトル大宮駅12:00、または12:30発、羽貫駅下車。送迎無料バスに接続（大宮駅から会場まで約45分）。またはJR上尾駅東口から伊奈学園行きバス12:48発、終点下車にて徒歩約10分（上尾駅から約35分）。無料駐車場有。

- 第1部 ビデオによる「今年の出来事」
午後1時30分～2時
- 第2部 叶内拓哉講演会 「幻の鳥ヒメクビワカモメについて」 午後2時～4時30分
野鳥カメラマンとしてご存知の叶内さんにたっぷりお話して頂きます。
- 第3部 懇親会（希望者のみ） 会場を大宮に移し、年忘れの会も兼ねて開催を予定しています。

『しらこぼと』後づめの会

とき：12月28日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：本当におし詰まっただけの日になってしまいました。何もこんな気忙しい日になんなくてもと思うのですが、暦のせいでも如何ともしがたいのです。年間を通じて多数の方に奉仕協力を頂きありがとうございました。同時に本日もよろしくお願い致します。

浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：平成9年1月3日（金・祝）

集合：午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場

交通：大宮駅東口7番バス乗り場から中野田引返し場行きで約20分、上野田下車。

当日は正月ダイヤで1時間に3～4本運行されるはずです。

担当：海老原、松井、楠見、櫻庭、工藤、新堂、藤原（寛）

見どころ：余計なことは書かなくてもよくご存じですね、野鳥達へのご挨拶の後

は、恒例の鳥仲間達との新年交歓会！
この日だけは酒類持参OKですよ。

宮城県・伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：1月25日（土）～26日（日）

集合：25日午前7時10分 大宮駅新幹線北口

交通：東北新幹線を利用します。参加決定者には詳細内容を送付致します。

費用：10,000円の予定（1泊2食付宿泊費、現地交通費、保険料、懇親会費を含む）
万一過不足は当日精算します。現地までの往復交通費は各自負担で願います。

定員：15名（先着順、支部会員優先）

申し込み：通常はがきに住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、中島康夫まで

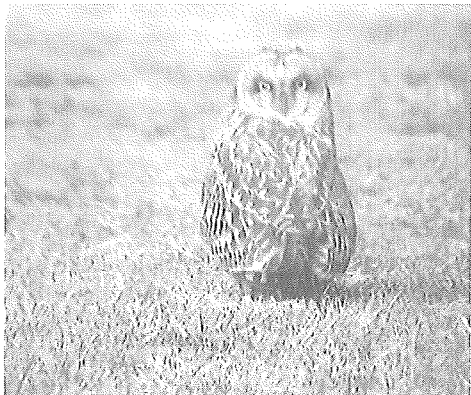
担当：中島（康）、櫻庭

見どころ：日の出と共にいっせいに飛び立つ一万羽を越すマガンの群れ、V字形の雁行などを楽しみに伊豆沼周辺を歩きます。ワシ・タカや冬の小鳥も楽しめます。積雪の中を歩きますので防寒と足捲きは充分にして下さい。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

◆1月12日（日）熊谷市大麻生定例探鳥会
千葉県船橋海浜公園探鳥会

◆JR・私鉄等12月にダイヤ改正が予定されていますので、時刻表をお確かめの上お出かけください。



コミミズク（菱沼一充）

行事報告

5月12日(日) 上尾市 丸山公園
 参加: 15人 天気: 雨後曇

カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コジュケイ キジ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 出発した時の雨もやがて上がり、林の中ではカラ類、遠くの梢にカッコウ、また池では定番のカワセミを観察。荒川の土手に登ると畑を横切るキジ2羽。ヒバリ、ツバメの飛ぶ中を最後の葦原でオオヨシキリを観察した。すっかり晴れ上がった中、早朝の空気を腹一杯吸い、無事探鳥会を終了した。
 (櫻庭 勇)

8月11日(日) 熊谷市 大麻生
 参加: 29人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ イカルチドリ アオアシシギ キジバト カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 夏の河原は暑い。木陰を見つけては休み、また進む。押切橋のところではSLに会い、皆で手を振って見送った。先頭を歩いていた数人は、ツバメの白化した個体を発見した。明戸堰では、遠かったが、カワセミとゴイサギをじっくり観察できた。
 (岡安征也)

9月1日(日) 本庄市 坂東大橋
 参加: 19人 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ チュウサギ コサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ

イ ヒヨドリ セッカ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 初めてメインリーダーを仰せつかり、スッゴク緊張。下見でも鳥があまり見つからず緊張度は更にアップ。しかし、探鳥会開始後すぐにツバメ、ショウドウツバメ、イワツバメの乱舞が見られ、各種の相違がよく観察できてほっとした。ぶっ倒れそうな暑さの中、サブリーダー及びご参加の皆様のご協力により、第1回目を無事に終了。皆様ありがとうございました。
 (和田康男)

9月1日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟
 参加: 94人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ ヒドリガモ オナガガモ スズガモ ハヤブサ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン キリアイ アオアシシギ キアシシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ セイタカシギ セグロカモメ ウミネコ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (38種) 曇りで、暑さもたいしたことなくて、ほっとした。時間の関係で、潮があまり引かなかったが、それでも埼玉ではあまり見られないシギ・チドリが近くで見られ、オグロシギとオオソリハシシギ、ダイシャクシギとホウロクシギなどの違いも分りやすかった。
 (佐久間博文)

9月8日(日) 熊谷市 大麻生
 参加: 51人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ オオタカ ツミ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボ

ソガラス ハシブトガラス (28種) 出発前からモズの高鳴きが聞こえ、秋の訪れを感じる。明戸堰に向けて出発。土手沿いの桜並木付近は草刈り作業中でエンジン音が響き、期待したホトトギス類を見られずガッカリ。でも、明戸堰では、カワセミ、猛禽3種、ここでは珍しいチュウサギも出て、気分よく終了。(森本國夫)

9月8日(日) 千葉県 船橋海浜公園
参加: 38人 天気: 晴

ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ ミユビシギ キアシシギ オオソリハシギ チュウシャクシギ アジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セッカ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (24種) 海浜公園の集合地に行ったら他の2支部もここで探鳥とのことで、順次出発した。アジサシは遠くで見えにくかったが、シギ・チドリは近くで、春とは違う羽の色を見せてくれ、コムツキガニもわりと近くで見られた。(佐久間博文)

9月14日(土) 千葉県木更津市 小櫃川河口
雨のため中止。

9月15日(日) 浦和市 三室地区
参加: 50人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ サシバ コジュケイ キジ バン イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) やや暑かったが、出る予感があったサシバが出現。コムクドリも出て、帰ってきたコガモたちと共に参加者を感動させた。楽しいカカシを見ながらの探鳥会だった。(楠見邦博)

9月15日(日) シギ・チドリ類一斉調査
ボランティア: 13人

浅見徹、阿久沢廣、石井智、海老原美夫、金井祐二、久保田忠覚、佐久間博文、竹内設雄、高文子、田辺八州雄、藤掛保司、松井昭吾、柳原正昭

9月22日(日) 寄居町 鐘撞堂山
雨のため中止。

9月22日(日) 狭山市 入間川
雨のため中止。

9月28日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 15人

荒木恒夫、岩上照代、江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、兼元義裕、佐久間博文、島田恵司、野田政子、原田譲、藤掛保司、藤野富代、安原久子

9月29日(日) 坂戸市 高麗川
参加: 47人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ ノスリ サシバ チョウゲンボウ キジ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ、ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 17号台風の影響で増水して川沿いは荒れていたが、上空にはチョウゲンボウ、ノスリ、サシバが舞い、歓声が上がった。期待のヤマセミは姿を見せず、残念であった。NTTの世界バードカウントに関連して、毎日新聞社の取材があり、翌日の新聞に写真入りで掲載された。(高草木泰行)

10月6日(日) 浦和市 民家園周辺
参加: 75人 天気: 曇

カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ キジ クイナ バン コチドリ イカルチドリ アオアシシギ タカブシギ イソシギ キジバト ツツドリ カワセミ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 快晴の予報に反して曇り空。でも鳥の出現は予想以上。キジの親子から始まり、渡りの途中のノビタキ、ツツドリ。枝に止まるキジ♂にびっくり。サギ類は4種類確認して、識別の勉強になった。調整池では、早くも冬鳥のカモが飛来。最後はカワセミが池を横切り、今年も実りの多い秋の差間コースだった。(手塚正義)

連絡帳

●バードソン支部公式チーム発足

里山の自然と野鳥を守るために1997年5月11日(日)に開催されるバードソン1997に、工藤洋三幹事を中心とする公式チームが参加することになりました。チーム名、メンバーなどは追々ご連絡できると思います。今回もご支援をお願いします。

●埼玉県支部の探鳥会運営方法など紹介

全国の支部の探鳥会リーダーたち宛に本部ネイチャースクールの安西英明氏が執筆発行している『探鳥会リーダー通信準備号』というのがあります。

その第4号(1996年11月発行)に、全8ページの内7ページを使って、支部全体の体制から、探鳥会運営の仕組み、支部の探鳥会規定や支部発行の『探鳥会のすすめ方』まで、安西氏が出席した8月26日(日)の支部リーダー研修会での様子を中心に、細かく紹介されました。

●支部会員たちのビデオ映像活躍中

11月10日(日)午後7時20分からの、NHKテレビ第1チャンネル『クイズ日本人の常識』で、町田好一郎幹事が撮影したシジュウカラの蟻浴びのビデオ映像が放送されました。同幹事の撮影したビデオ映像は、土曜日の正午前、NHK前橋放送局からのローカルニュース枠でも度々放送されています。

佐藤進会員が撮影したコウライウグイスの繁殖の様子は、NHKやテレビ埼玉のニュース番組で放送されて大きな反響を呼びましたし、海老原美夫副支部長が撮影した映像を自分で解説する番組『野鳥』(テレビ埼玉、毎週火曜と水曜、午後0時20分頃から45分頃までの間の5~6分間、水曜は火曜の再放送)も3年目に入り、125回以上続いています。

●「核都市広域幹線道路」その後

反対する連絡会は7月13日に発会し、今後次のような活動を予定していると連絡があり

ました。

コース見学会 11月24日(日)

学習会「脱クルマ社会を考える」 12月7日

(土) 14:00~16:00 所沢市中央公民館

市民集会 1997年2月予定

署名活動 1996年11月下旬スタート

●ご寄付ありがとうございました。

浦和市立郷土博物館親子探鳥会の講師たち8,000円。浦和市立郷土博物館夏休み子供探鳥会の講師たち8,000円、小川寛次2,000円、支部リーダー研修会懇親会参加者たち1,090円、藤原まゆみ500円。(敬称略、50音順)

●12月の事務局 土曜と日曜の予定

7日(土) 普及部会議。

14日(土) 編集会議、研究部会議。

15日(日) 役員会議(仮日程)。

21日(土) 『しらこぼと』12月号校正作業。

28日(土) 袋づめの会。

●会員数は

11月5日現在2,703人です。

活動報告

10月5日(土) 普及部会議。

10月19日(土) 校正作業(海老原美夫、工藤洋三)。役員会議(司会:倉林宗太郎、バードソン参加について・3月までの探鳥会予定・その他)。

編集後記

10月号の特集「マイフィールドノート・入間川」は、大変うれしいものでした。9月号の特集の呼びかけに早速応えてくれたものだからです。

このような記録が、身近な環境を守る上で大変貴重なものになると思います。5年後、10年後は更に貴重です。活字で残っていると説得力も増します。

編集部では、あなたの「マイフィールドノート・〇〇」をお待ちしています。(山部)

『しらこぼと』1996年12月号(第152号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)